

67期会連絡等

残暑お見舞い申し上げます この暑さで久しぶりに練習艦隊のときの馬公での石炭搭載や缶室通路で蒸気パイプの下に吊床をつって寝たことを思い出しました。

先般配布した「言い残しておきたいことども」残部が相当数ありますので追加配布をご希望の方はお申し越し下さい（無償）

年をとるほど暑さ寒さがこたえます まだしばらく暑さが続くようですのでくれぐれもお大切に祈ります

幹事の承知している最近の入院者

熱海君（食欲不振が長く点滴のため、長期入院できるところを検討中）

二間瀬君（のどの腫瘍検査）

お大切ご全快を祈ります

2007 八月二十五日

六十七期会幹事

ご連絡

（平成20年12月15日）

第67期会幹事

としをとるほど一年が経つのが早い気がします。昨年佐野君が逝去されていたのが夫人の知らせで判明し今年には熱海君を失ってよいよ残り20名となりました。90歳を超えるなど夢にも思いませんでしたが、せつかく戴いた命、閻魔様からお呼びがあるまで、できるだけ元気で過ごしたいものです。

1. 訃報、敬弔

佐野曙君 昨19年9月14日逝去（胃全摘手術以来10年）（別紙第1）

熱海光雄君 7月8日逝去（昨年6月肺にたまった水を抜くため入院、爾来施設で療養、7月4日容体急変緊急に入院したが、心不全、呼吸不全で逝去）、なお75期齋藤正一、洪俊夫の両君はたびたび見舞って元気づけてくれた。

9日前夜祭（石原夫妻、市来、中村参列）10日葬儀（深井、田中和子夫人、中村参列）とも恵比寿聖徒教会で実施、出棺時77期のコール77が「海行かば」で送った。なお11月6日連合クラス会、銀鷹会、海軍三校クリスチヤンの会、励みの会、コール77合唱団共催で「熱海光雄様を偲ぶ会」が行なわれた（別紙第2）。

2. 行事

永代神楽祭 6月17日出席級友5名（遠方参加者：横山、近藤）家族3名遺族12名（高橋洋子（中村文郎長女）、妻（豊田光子、古田悦子、宮崎千代子）、弟（川添利幸、神田弥一郎、同豊、栗原仁、佐伯俊雄、武沢秀夫）甥（隈元寛治、佐股）

四火会

4月22日6名（草刈夫人参加）

9月24日4名

11月25日：会員の健康状況を考え中止

連合クラス会 6月9日最後の連合クラス会開催、出席者420名（級友有 留、市来、中村）、当日配布の記念誌（熱海君の連合クラス会始末記も掲載）を未配布の級友に同封する

3. 平成21年行事予定

永代神楽祭 6月17日(水) 1400(集合30分前)

忘年クラス会 11月24日(火) 遺族、家族を含み、関係者に11月上旬に再度連絡する、連絡の行かない必要人は幹事に問い合わせてください

なお四火会は打ち切りとします

4. 級友消息

(註) 「 」のなかは本人の手紙または家族の口頭の便り、その他は幹事よりの情報

有留喜郎君 夫人の介護で大変であった。「90になって炊事しようとは夢考えず、どうか痩せない程度に食べていた。4月に長男が福岡に転勤になり、たまたま100メートルくらいのところに中古マンションの売り物がでて引っ越してきた。お陰で嫁が三度三度賄ってくれ、家内の面倒もよく見てくれて、助かっている」「相変わらず車を運転し、ゴルフも続けているが、半年以上休まざるをえなかったら、ビギナーになった」「朝夕2キロ歩いている」

石原孝徳君 「長年酷使したためか物忘れがひどくなった。毎日デーサービス通い、月一回受診中」

市来俊男君 11月に次女を失った。一人だけうちに残って頼りにしていた娘だけに、大ショック「幹事註、夫妻二人ともクラスで一番元気、つい当てにして幹事の仕事の大半をやってもらっていた。「熱海を偲ぶ会」の時も幹事入院中のため市来君に幹事代行をお願いしたが、後から思い合わせると、次女の悪い最中で、看護や見舞いまで犠牲にされたのではないかと胸が痛む」

護衛艦「愛宕」の事故に関する所見 別紙第3

今井梅一君 4月始め体調不慮で受診の結果胃ガンと判明、手術のできる年でないため、抗ガン剤等の治療や点滴による体力維持に頼っているが、「まだ食欲も多少あり、日常生活に変わりはない、当分はもつだろう」

今泉理君 「級友の訃報、何分高齢のこととは申せ、志を一つにして歩いてきたお互い、残念至極」「私ことヨロヨロ、モタモタ、ドッコイショ．．．．エー？ナニ？アッハッハの毎日、己を顧み苦笑」

今西三郎君 「近藤君の書「波瀾の空に生きて」は名文で読み易く、航空に進んだ級友生涯の軌跡を代表するものと興味深く読んだ。戦後国産「YS-11」のテストパイロットとしての貢献は偉業と言うべくクラスの誇りでもある」「時岡君がイ366潜水艦長時代の部下(当時19歳)が数年前「イ366奮戦記」を上梓し、その続編原稿を時岡艦長に代わって下見をと頼まれ、タイムトンネル六十数年を潜って11月の2, 3日を過ごした。なかでも回天発進時の雰囲気、艦長号令、死出の旅路に出すものと出るものとのやりとり、発進に続く祈りの沈黙が伝わり胸が詰まった」

「寒くなり爛酒が欲しい季節になった。好きだが、量は今井賢二君や田中一郎君の舐める程度に過ぎない。最近東北の地酒が美味しい」

上村貞蔵君 「足かけ20年にわたる日本新聞販売協会の役員(副会長など)を7月に退任して通勤感覚であった東京出張もなくなった。足もとの信濃毎日新聞松本専売所会長と松本平タウン情報社社長の仕事には手を抜けないが、(幹事註、終身現役ということ、今でも8時より早くうちに帰ることはない)女房の誘いに乗って十月に老々携えてオーストラリアへのツアーに参加した。最長老夫妻ということで皆さんから大事にしてもらえ、シドニー湾を前にした公園で往事の特潜勇士の死闘を偲んで感慨に耐えず、心からの冥福を祈った」

川上大一君 「相変わらず無為に消光しているが年のせいで少々体にながたがきた(糖尿病の気あり)」

近藤計三君 今年のかねての思いであった自分史を子孫に残すことができ満足している。「夫人が涙やつばのでない膠原病で困っている」

櫻井忠成君 「引き続き足が悪く殆ど外出はしない」

新庄直常君 「四号二分隊は戦後五名も生き残ったのに、ここ数年で永井、田中（一）を失い今度熱海に先立たれ、とうとう肥田と小生の二人のみとなった。熱海には昭和19年スラバヤGKF司令部で随分世話になった。戦中、戦後を通じての熱海君の功績にあらためて敬意を表します」

「近藤君の自叙伝、大作を完成されたことに敬意を表し、飾らぬ筆致に好感をもって読んだ。．．．たびたび会う機会があったが詳しい話を聞いたこともなく新鮮な気持ちで感心しながら読んだ。またいくつか同感の所見があった、」

「当ホームで謡曲のリーダーとして毎月曜日数名とともに謡っており、近く450回になる。之も健康維持に役立っていると思う。持病（不整脈）の方は著変なく神経痛は鍼灸のお陰か軽易にすんでいる」

「昭和の晩年ごろ岐阜の高橋達雄君の令兄が、達雄君の法事を営まれ在中京地区級友を招かれた際、佐野君と同席、その後一度靖国クラス会であった。確か仕事の特許申請の難しさを聞いたように思う、無口だが、頭の良い人だった印象だ」「クラスが20名となったその中に自分があるのが不思議な気がする。かって田中（一）が「貴様は万病息災だな」といったこと思い出す。私は何事も半分以上は運だとも思っている。凡て人事を尽くして天命を待つほかはなく、「人事を尽くさずして天、天という事なかれ」の教訓も肝に銘じて余生をなるべく穏やかに生きたいと念じている」

「小生方の電話が繋がらないとき当ホームの事務所（078-795-8111、エリネス須磨）で消息が分かる」

帖佐郁男君「耳が遠くなって電話は留守電にしているが、年相応に元気」

中村悌次 「今年は年の初めから肺炎やら膵臓の検査などで3回入院を余儀なくされたが、目下のところは無事、後は閻魔さん次第」

西村茂義君「5月に足を骨折し、10月にやっと退院、家内もぼけで入院中」

肥田真幸君「夫婦とも元気」「熱海が亡くなり急に淋しくなった、残る桜もそのうち散る桜になると思っている。終戦記念日になると引き出されるが有り難いことだと思っている。水墨画も最近うまくかけなくなった。これも年のせいかな」肥田君の講演に関する新聞記事別紙第4

深井浩介君「1年くらい前から難聴が進み人の話が殆ど聞き取れず、会話が成立せず、加えて左眼は加齢黄斑変性が進み視野の中心に円形の影が出現し視力が急速に低下、読書の楽しみも今のうちかとやや悲観的」

「NHK大河ドラマに関連、この際腰を入れて調べてみようという気になり、西郷隆盛に関する伝記を収集することとし、5冊ほど読了、烏滸がましいが私の評定は次の通り、1. たいへん鷹揚でおおらかでありながら、きわめて人情に厚く、いわゆる多感な性格で、情にほだされる、このことが生涯に大きな振幅を与えることになった。2. 驚くべき緻密な頭を持ち、政治軍事の指導者として計画指導能力に秀で、謀略もできた、行政管理面では数字に明るく、細かいことにも配慮し、経済を見る目も、商才もあった。3. 漢学については学者の域に達していたが、洋学については不学、不識といわれた。4. 明治維新の成功は、西郷個人の人柄と情に帰するとすることもあながち偏見とはいえない。また維新後新政府での「廃藩置県」「断髮廢刀令」「徴兵令」等の画期的施策は新政治の基盤を築くものとして高く評価される。5. 大久保の性格は冷酷、打算的、陰険なところもあった。外遊から帰国後西郷の征韓論を逆手にとり、権力を奪取した。

以上きわめておおざっぱで乱暴な所見となったが、西郷隆盛に対する畏敬の念が沸き上がったことは大きな収穫であった」

二間瀬国郎君 「昨年入院加療した食道ガンは殆ど治癒したが、今年に入って肺に転移が見つかり、5月から入院治療8月退院、多少肺にかすが残っているが、治療結果はほぼ満足のいくもの（主治医の診断）正月には市川の息子のところに行く計画をするほど元気」

山崎俊夫君「本人は元気だが、家内は24時間手を離せない介護が必要」

横山岳夫君「当方老後は病とは縁少なく、多少ヨボヨボしてきたが、毎日を楽しく独居老人を満喫」「佐野君とは練習艦隊では机が近く、また飛行学生でも楽しい思い出多し。その

後戦中戦後ともお会いする機会なく残念」「訃報の諸兄の名前を読み、面影を偲び追想、自然の成り行きとはいえ一抹の淋しさを禁じ得ない」「東郷誌に潜水艦の記事が連載され、今西兄のご苦勞の様子が伺われた」「四火会（忘年会）中止、年一回の会合を待望していたので残念でならず、諸兄に会えないのでよろしくお伝えを請う」

吉村五郎君 「8月の検査で介護指定の取り消し、足腰の痛みで「徒歩外出不能」の指定を受け、以来病院等の世話は、ケアマネジャーの指示で、NPO法人サポート海の手理事長車栄人氏（海自出身）のお世話や息子共の車に頼っている。また老夫婦の生活上の面倒はケアマネジャーの指示に頼っている。」「近藤計三君の一代記、内容のある筆力の見事さに感嘆、彼が数少ない中攻生き残りの勇士として、戦後も航空界に貢献された生き方に、ただただ敬意を表する他にいと合わせて、弟博の働きを思い出している」「読売紙11月11日、皆川博子さんの「生病老死の旅路」と題する投稿文に「生への執着は強くなかったはずなのに、死ぬことが現実になら近づいてきて、生きることへの欲望が強まっていると感じます」と、まだまだ書く気力の旺盛さを表現されていることに同意を覚えた」

20. 11. 11
67期会幹事

四火会（忘年会）取り止めのお知らせ

11月25日に忘年会を兼ね本年最後の四火会を行う計画でしたが、会員の健康状況その他諸般の状況を勘案し、残念ながら取り止めといたします。皆様お大切の上良いお年をお迎えください。

年末には連絡報を出したいと思っていますので。幹事宛近況をお知らせ下さい 以上

203-0021

東久留米市学園町2-14-12

中村悌次